

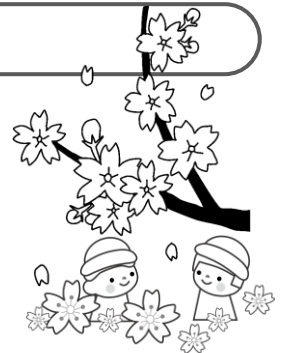
小山市小中一貫校(乙女中学区)推進委員会会報 第4号



● 第4回 推進委員会の結果概要

4回目の会議が、3月14日(月)にしらさぎ館で開催されました。乙女中学区における地域説明会の結果報告をおこないました。その中で、説明会でいただいたご意見や質疑応答について確認しました。また、乙女中学区での小中一貫教育の取り組みや、子どもたちの様子について乙女小学校の菊地校長先生や下生井小学校の高際校長先生からご報告をいただきました。

説明会の開催結果報告や、説明会内での質疑応答については以下に掲載しております。また、小山市ホームページにも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



● 「乙女中学区の今後の学校の在り方について」説明会 開催結果報告

2月から3月にかけて、乙女中学区の地域の方々を対象に、計6回の説明会を開催いたしました。開催結果は以下の通りです。ご多忙の中、多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。

| 実施日時 | 場 所 | 参加者数 |
|----------------|-------|------|
| 2月 6日(土) 10時～ | 生井公民館 | 26人 |
| 2月 7日(日) 10時～ | しらさぎ館 | 17人 |
| 2月18日(木) 18時半～ | しらさぎ館 | 31人 |
| 2月25日(木) 18時半～ | 生井公民館 | 16人 |
| 2月29日(月) 18時半～ | 生井公民館 | 25人 |
| 3月 5日(土) 10時～ | 生井公民館 | 29人 |
| 合 計 | | 144人 |

● 説明会での質疑・応答について

説明会内での質疑応答については以下のとおりです。

Q1 いつ統合になるのですか？

現時点で決定しておりません。現在、地域推進委員会で協議を進めており、アンケート調査結果や説明会の結果を受けて、課題を整理し、地域の合意が得られたという判断がなされた後に、準備期間も含めると数年はかかると考えております。

参考として、絹中学区では平成26年度から検討を始め、約1年で合意が得られたとなり、平成27年・28年の2年をかけて開校の準備となりました。同じように乙女中学区で進んだ場合、最短で本年度で合意が得られたとなれば、平成28・29年度2年かけて準備し、平成30年4月に開校となると考えられます。

Q2 学校跡地利用はどうなるのですか？

現在、跡地利用について小山市全体で考えるため、跡地利用検討委員会を立ち上げ準備を進めております。跡地利用について、地域の方の意見も参考に進められると考えており、地域にとって、よりよい活用方法が図られると思います。

Q3 地域と連携した活動が無くなってしまうのですか？

これまでの地域と連携した活動は、それぞれの小学校単位でしたが、統合後も活動を継続した場合、これまで参加ができなかった他校の児童も活動に参加ができるようになることから、新たな参加者が増えることによって、活動が広がることも考えられます。

Q4 スクールバスは運行するのですか？

統合となった場合、文部科学省の通学区の基準はおおむね4 km・通学時間 1 時間ということから、これを超える区域が発生しますので、基本的には運行する方向です。バス停の位置や運行ルートについては、学校や地域の意見を伺い検討を進めることとなります。

Q5 先進地ではどのような義務教育学校名がありますか？

先進地である東京都品川区では区内の義務教育学校名を品川区立〇〇学園と統一しています。また、茨城県つくば市では「つくば市立春日学園義務教育学校」としております。なお、文部科学省から義務教育学校名として定まった形は示されておられません。

Q6 開校に向けて教育面ではどのような整備をおこなっていく予定ですか？

例えば、6年生から乙女中校舎に入り、中学校で導入されている教科担任制を段階的に取り入れるなど、より柔軟な教育をおこなうことができます。現在、絹中学区の検討の中では、現福良小校舎に1年生から4年生が入り、現絹中校舎に5年生から9年生まで入るなど、教育面に合わせた校舎への入り方や絹地区の特色を生かした教育について検討しているところです。

Q7 統合の合意は何をもって合意なのですか？

昨年10月におこなった地域アンケートの結果や、今回の地域説明会において、みなさまからいただいたご質問・ご意見から課題を整理し、推進委員会にて協議を行い合意をいただくものです。

Q8 10月におこなったアンケート結果が、実際に統合するかどうか判断されるものとは認識していなかったのですが。

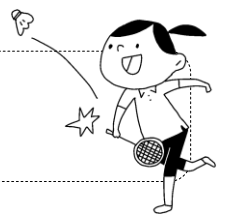
昨年10月におこなったアンケートは、同封の「小山市小中一貫教育及び小中一貫校に関する提言書の概要」と「学校適正配置(学区・学校の再編)等に関する提言書の概要」をご覧になった上でのご回答をお願いしたものです。「学校適正配置(学区・学校の再編)等に関する提言書の概要」の中では「乙女小、下生井小、網戸小を、校地を乙女小として統合することが提案されています」との提言を記載し、地域のみなさまは今後の方向性はどのようなお考えであるかを伺ったものですので、統合の提案に対するみなさまの意向が示されたものと考えています。

Q9 現在の小学生と中学生が同じ校舎で生活するとなると、小学生も制服を着用するのでしょうか？

小学生の制服着用については、現時点では着用しない方向で検討しています。

Q10 小学生の部活動参加の可能性はありますか？

中学生でないと大会へ出場できない制約があります。また、小学生の場合、下校時間が遅くなってしまうことによる帰路の安全面の問題が考えられ、保護者の迎え等課題がありますので、今後検討させていただきたいと考えております。



Q11 義務教育学校となった場合、教育面において10年程度で成果が出るとなっているが、成果が出るまでの間、子どもに対するメリットやデメリットはありますか？

義務教育学校となった場合の教育面での成果については、文部科学省の調査によると、10年目以上で「成果あり」との回答が最大の98%となっているのであり、1年目～3年目においても、81%が「成果あり」と回答していることから、10年経過しないと成果が出ないというものではありません。また、同調査では、メリットについては「中1ギャップの解消」や「小・中学校共通で実践する取組が増える」など数多くあげられ、課題としては「児童生徒間の交流を図る際の移動手段・移動時間の確保」などがあげられています。

Q12 義務教育学校となることによる環境や人間関係の変化に子どもたちが適応できるか心配です。配慮はしていただけるのですか？

環境や人間関係の変化については十分に配慮して対応していきます。

Q13 網戸小の一部の子はスクールバスになるのですか？

スクールバスの乗車区域については、今後、地域のご意見を伺いながら、通学距離に応じて検討したいと考えております。

Q14 文部科学省のアンケート調査において、1クラスあたりの望ましい児童生徒数が26人から30人であるとの意見が61%と高いが、これは教員の回答ですか？

文部科学省のアンケート調査の回答者は、学校教職員57%、保護者17%、その他26%の構成です。

Q15 今回の説明会を聞いていると、教育面についてはあまり決まっていない状態で説明会を開催しているように思えますが、実際はどうなのでしょう？

平成22年度から乙女中学区では、小中一貫教育の取組みを進めてきており、また、平成26年3月に小中一貫教育及び小中一貫校に関する提言書が示されたことを受け、教育面について、研究を進めています。参考として、統合することが決まった絹地区では、平成29年4月の義務教育学校の開校に向け、現在、「絹地区義務教育学校基本計画(案)」という教育面におけるより具体的な方針を作成しているところです。

Q16 義務教育学校となった場合、例えば、絹中学区では1～4年生と5～9年生で分けて2つの校舎を使用するとのことでしたが、このような区切りには何かきまりがあるのでしょうか？地区によって変えることは可能なのでしょうか？

小山市小中一貫教育及び小中一貫校推進協議会の提言書では、小学校から中学校への円滑な連携や接続を意識し、学年段階の区切りは「4-3-2」を基本として取り組んでいくことが望ましいと述べられています。絹中学区の検討の中において、施設利用については、校地とする現福良小学校舎および現絹中校舎のうち、現福良校舎を1～4年生、現絹中校舎を5～9年生が利用することが適当ではないかと考え、その方向で準備をすすめているところです。

乙女中学区で義務教育学校をすすめていくことになった場合は、学年段階の区切りと校舎の利用双方を考慮したいと考えております。また、「4-3-2」という学年段階の区切りについてですが、文部科学省で示されている小学校及び中学校の学習指導要領を準用することとなっているため、義務教育前期6年、後期3年のくくりの中で教育をおこなっていくことには変わりはありません。子どもの成長を考えて学年段階の区切りを柔軟に設定することが可能となっております。



Q17 絹中学区では今年度1年間検討した中で、何が決まったのでしょうか？また、開校までの残り1年でどのようなことを決めていく予定でしょうか？

地域や学校では、現在、新しい学校の名称の検討をするともに、絹地区義務教育学校基本計画(案)を作成しながら、先生たちからどのような子を育てたいか、どのような教育に取り組んでいくのかを伺い、平成29年4月の開校に向け検討しているところです。また、教育委員会では、制度・しくみ・施設面について検討をすすめており、今後は、新たな学校種として小学校、中学校に「義務教育学校」が加わることに伴う条例改正、スクールバスおよび現福良校舎と現絹中校舎間における渡り廊下の整備をおこなってまいります。

Q18 1～9年生の義務教育学校となった場合、現在の小学校6年生でおこなっている卒業式はなくなってしまうのでしょうか？修了式はどのようなのでしょうか？

卒業式については、事務局としては先進地例などを資料として提供し、最終的には学校に決めてもらうこととなります。先進地の例をみますと、1年時に入学式、9年時に卒業式という形態を検討しているところが多いようです。ただ、前期課程6年と後期課程3年の区切りを大切にしようという考えもあることから、現在、絹中学区では、前期課程6年の修了式は他の学年の修了よりも重みのあるものにしようという話を校長先生方とすすめているところです。

また、どの学年においても修了はあり、学年が終わる毎に修了証(通知表の裏)を渡しています。

Q19 統合について、下生井小や網戸小については人数が非常に少ないため、人数の多い乙女小の中に入り、生活をしていくことに対し、不安があります。下生井小においては、今現在、市で先生を加配していますが、統合後も数年間は加配等の対策をとっていただけないでしょうか？

学校の取り組みとして、中学校に進学した子どもたちが戸惑わないよう、小学校3年生以上において、乙女中学区内の交流をすすめており、具体的には、宿泊学習や社会科見学を一緒におこなっています。今年は社会科見学の事前学習や6年生では外国語指導助手(ALT)との授業も一緒におこないません。来年度は、乙女中に小学校3校が集まり、乙女中の校舎で交流をさせたいと考えております。少しでも多くの子もたちと顔見知りになるということが大切であると考え、今後もこのような活動を増やしていき、子どもたちの戸惑いを少なくできればと考えております。人数からみれば、下生井小や網戸小は少ないですが、乙女小の子どもたちとの交流に対して最初は不安そうな顔であった子どもたちも、交流後は大変充実した様子で帰ってきます。このようなことから、中学校との交流も含め、今後も機会を増やしていきたいと思っております。

また、加配については今後検討していきたいと考えております。

なお、教職員の配置についても配慮し、1日もはやく子どもたちが馴染めるよう考えていきます。

Q20 乙女中学区では平成22年度から現在にかけて小中一貫教育を進めてきている状況ですが、PTAなどへの周知はどのようにおこなっていますか？

学校では、乙女中学区でおこなっている小中一貫教育の内容をPTAの集まりや年2回発行の「おしあお」というたよりを通じて発信しています。このたよりでは、小学校同士の交流についてもご案内しております。

4校の先生方も9年間をかけて子どもたちを育てるという意識を高めながら小中一貫教育に取り組んでおり、平成29年度から絹中学区の義務教育学校がスタートすることにより、小中一貫教育が一層充実していきたく思います。今後も今以上に周知していけたらと考えております。



● 乙女中学区の進める小中一貫教育について

平成28年度も引き続き、乙女中学区の今後の学校の在り方について検討を重ねてまいります。